ラグビーは簡単な競技

ラグビーは分かりにくいという声があります。分かりにくいことが面白くない原因になっているようです。ラグビーは簡単な競技なのに、分かりにくいものにしてしまっているのは残念な事です。反省され見直しが始まっていることが次の文でわかります。

> We are looking at the game in a new light with the idea of making it simpler and easier to play and referee, and to ensure Rugby is understood and enjoyed by the increasing number of spectators that are being attracted to the game.

ラグビーを楽しむために、反省からの議論の経過と意図を前もって認識することは、ルールを正しく守るという点でも有意義なことです。

見直しの方向としては、どのように競技するのかについて、「できないとかしてはいけない」(can not, must not)でなく、「できる・してもよい」(can, may)を骨格として今より強く打ちだしていくことも議論されているようです。温故知新。競技方法 MODE OF PLAY 第 7 条は、できることを羅列し、簡単で自由であることを宣言した条文です。「全身を使って自由にやりなさい」というラグビーの競技方法の基本は、ラグビー誕生以来変わっていません。

1971 年即ち RFU 創設 100 周年記念式がトゥイッケナムで世界中が集まって盛大に挙行された年と、2000 年ミレニアムの改革と整理がなされたものを対比してみると、内容が変わっていないことがわかります。2000 年の表紙に、「THE LAWS OF THE GAME MAGE EASIER」という言葉が付け加えられていることに注目しなければなりません。内容としてはただ一つ、push が shove に書き替えられていることは注目しなければなりません。push は押す。押し動かす。hove は曲げていた膝を伸ばすようにする一押しです。push as tag の感じです。押す長さでいえば 10㎝ 位ということです。日本語ではどちらも「押す」と訳されていますが、短い適当な表現がないからであって、短絡的に同じ押すだと思ってはいけないのです。power rugby の時代に power の適切な効用について限定するもので、望ましいラグビーの方向性を示す重大な問題なのです。

Law 7 74

LAW 7. MODE OF PLAY.

A match is started by a kick-off, after which any player who is on-side may at any time

- catch or pick up the ball and run with it,
- pass, throw or knock the ball to another player,
- kick or otherwise propel the ball,
- tackle, push or shoulder an opponent holding the ball,
- fall on the ball,
- take part in scrummage, ruck, maul or line-out,

provided he does so in accordance with these Laws.

1971 年　競技規則　第 7 条

LAW 7 - MODE OF PLAY　IRB

HOW THE GAME IS PLAYED

All the necessary requirements for the game to commence have been covered. The following five laws indicate how the game is played. The Laws cover the mode of play (Law 7), how continuity of the game is maintained through the application of advantage (Law 8), how a team scores (Law 9), the requirement of players to remain on-side (Law 11), the need for players to play within the Laws of the Game and not to commit acts of foul play (Law 10). While playing the game it is possible that they may knock the ball on or throw it forward in contravention of the law (Law 12).

LAW 7 - MODE OF PLAY

PLAYING A MATCH

A match is started by a kick-off.

After the kick-off, any player who is on-side may take the ball and run with it.

Any player may throw it or kick it.

Any player may give the ball to another player.

Any player may tackle, hold or shove an opponent holding the ball.

Any player may fall on the ball.

Any player may take part in a scrum, ruck, maul or line-out.

Any player may ground the ball in an in-goal.

Whatever a player does must be in accordance with the Laws of the Game.

2000 年　競技規則　第 7 条

2000 年第 7 条は、ルールに説明的に、「ラグビーフットボールはどのように競技されるか」が挿入されています。世界中のいろいろな地域のいろいろな人たちにラグビーが普及したグローバリゼーションの産物です。

上の競技方法でラグビーを楽しむ場合に大切な心構えとして 3 つの事があげられます。

1．equal condition　条件から公平に
2．open play　展開継続に努める
3．Safety　事故防止

この心構えで競技方法通り、flair を働かせて自由に即ち全身を使って全霊を働かせて楽しむことは、簡単で分かり易い事です。本能にしたがって(instinctively)自由にやっていけないのは

10m サークルのルールだけで、それは「伸び伸びと自由奔放にやりなさい」という時の論拠にもなっているのです。

現在のルールを「正しく」守るとは、消極的 negative ではなく積極的に positive プレーして good, bright, interesting rugby game を楽しむということです。勝利至上主義で勝てば官軍と公言することなく、IRB のルール改訂をまつことなく、ラグビーを楽しむ文化を育てる営みを始めなくてはなりません。プレーヤーはできることだけをやって、できないこと即ちしてはいけないことをしないことです。ルール見直しの方向として、ルールの意志に沿ってできることの範囲を広げようというものであるとつたえられていますが、タックルからラックになって、ボールを放さなかったのか、放させなかったのか問題にするよりも、もっと手でボールを扱うことができるようにすれば中断が少なくなり、分かり易くなるということもその一つです。

2006.03.18
西川　義行